

2022年7月4日

住友電気工業株式会社

住友電工システムソリューション株式会社

VICSセンターの「プローブ情報活用サービスの実証実験」が全国へ拡大

一般財団法人道路交通情報通信システムセンター（VICSセンター）による「プローブ情報活用サービスの実証実験」は、2020年4月から関東1都6県で、2022年1月からは札幌エリア、愛知県、大阪府を加えて実施されてきました。2022年7月4日からは全国へと拡大されています。

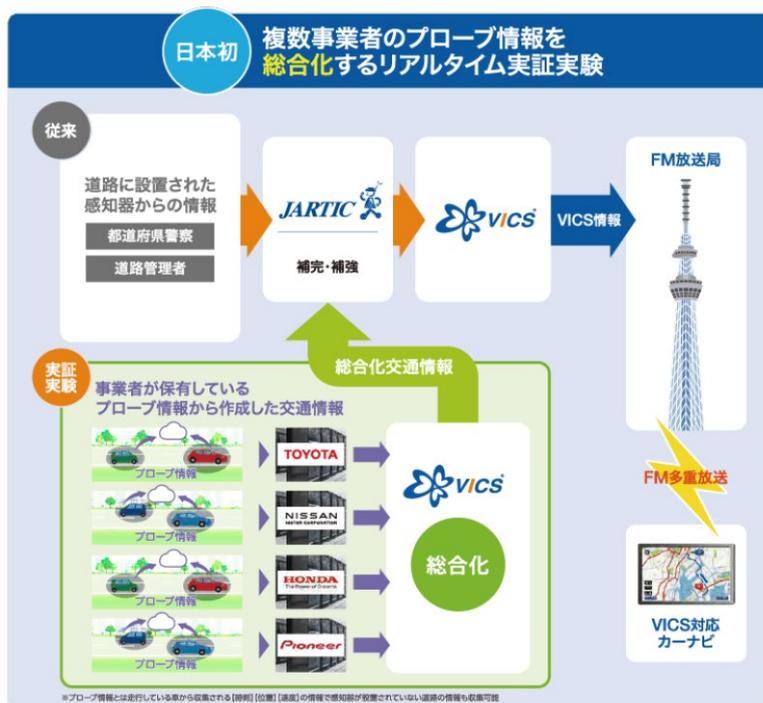
住友電工システムソリューション株式会社（以下、SSS）は、この実証実験の開始当初から実証実験システムの構築と運用を担ってまいりました。

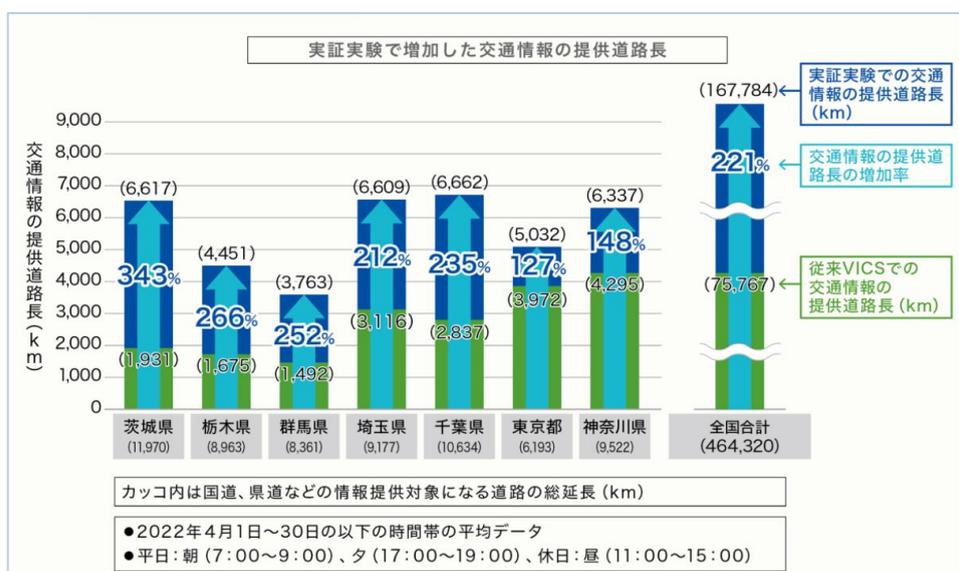
今後とも住友電気工業株式会社とSSSは、渋滞改善、CO₂削減等の社会課題解決に貢献するVICSセンターの取り組みに賛同し、技術の開発・提供を通じて、グリーンな地球と安心・快適な暮らしの実現に貢献してまいります。

従来の道路交通情報は、主に道路に設置された感知器から収集した情報をもとに作られており、感知器がない道路の交通情報を提供できないのが課題でした。

それを解決するのが「プローブ情報活用サービスの実証実験」です。

この実証実験では、「プローブ情報」と呼ばれる道路を走行する多くの車から得られる、位置、速度、通過時刻などの走行データを利用して交通情報（道路の混雑状況）を生成し、感知器からの道路交通情報を補完・補強して、カーナビに提供します。





このプローブ情報を活用することにより、全国平均で従来比約2倍の道路の交通情報を提供することができます。これまで提供されなかった道路の交通情報を利用することで、カーナビでのルート計算や到着予想時刻がよりの確実になることが期待されます。

実際に、これまでの実証実験の対象地域では「ルートの最適化」や「到着予想時刻のズレ改善」などの効果が確認されています。これにより渋滞による時間や経済的な損失の改善が見込まれ、CO₂削減にもつながることが期待されます。

また、VICSセンターでは本実証実験の推進にあたり、各自動車・カーナビメーカーが収集しているプローブ情報を統合して交通情報を生成するロジックを開発しました。

SSSはこの開発に、VICSセンターの基幹システムや交通管制システムを構築した技術を生かして貢献し、当初よりシステムの構築、運用を通じて本実証実験の一翼を担ってまいりました。

今後とも住友電気工業株式会社とSSSは、渋滞改善、CO₂削減等の社会課題解決に貢献するVICSセンターの取り組みに賛同し、技術の開発・提供を通じて、グリーンな地球と安心・快適な暮らしの実現に貢献してまいります。

<関連ホームページ>

一般財団法人道路交通情報通信システムセンター (VICSセンター)

<https://www.vics.or.jp/>

以上